

58. スギ製材歩止りについて (第2報)

大分県林業試験場 小 野 正 昭

1) 実験調査の目的

第1報参照 (昭和32年11月発表)

2) 実験方法

A. 実験用帯鋸盤及び帯鋸

- (イ) 帯鋸盤 (第1報参照)
- (ロ) 帯鋸巾 $\left\{ \begin{array}{l} 5 \text{ インチ} \\ 3 \text{ インチ} \end{array} \right\}$ 24B. W. G
- (ハ) 鋸厚平均 0.56mm
- (ニ) アサリ巾平均 1.16mm
- (ホ) ピッチ $1\frac{1}{16}$ インチ, 1 インチ
- (ヘ) アサリスエージセット歯
- (ト) 歯型 (第1報参照)

B. 供試木

- (イ) 生長状態 やや不良
- (ロ) 丸太の位置 1. 2. 3. 4. 番玉
- (ハ) 長さ 6.6 尺
- (ニ) 供試本数 100 本

C. 測定用計量器 (第1報参照)

D. 板の種類

- 厚 3分
- 巾及び等級 $\left. \begin{array}{l} 1.2 \text{ 寸} \\ 3.0 \text{ 寸} \\ 3.5 \text{ 寸} \end{array} \right\} 1 \text{ 等, } 2 \text{ 等}$
- 4.0 寸上1等

E. 製材工 (第1報参照)

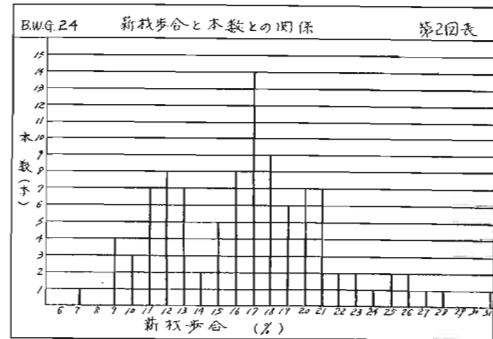
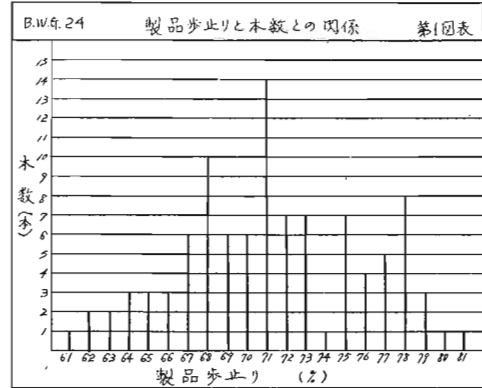
F. 実験期間

自昭和32年9月至昭和32年12月

3) 実験結果

総数量に対する製品, 薪材, 鋸屑の歩合は第1表のとおりである。

第1図表は製品歩止りと本数との関係をみたのであるが全体の約8割が67%~78%の間にある。



第2図表は薪材歩合と本数との関係をみたのであるが全体の8割が11%~21%の間であり, 最高31%が1本あつた。

第3図表は鋸屑歩合と本数との関係をみたのであるが全体の約8割5分が9%~11%に集中している。例外として24%を示したものが1本あつたが測定上の誤りであると思われる。

第2表及び第4図表は径級別に製品歩止り, 薪材歩合, 鋸屑歩合を比較してみたのである。

製品歩止りは丸太の径が大きくなる程向上する。

薪材歩合は逆に丸太の径が大きくなる程少くなる。

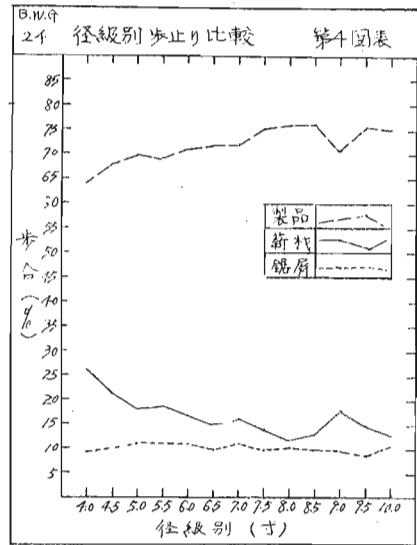
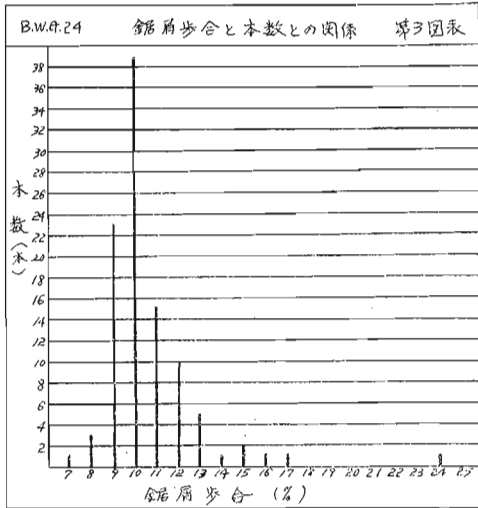
鋸屑歩合は丸太の径, 製品歩止り, 薪材歩合等に左

第1表 総数量と平均数量

項目	素材重量 (kg)	製品重量 (kg)	薪材重量 (kg)	鋸屑重量 (kg)	製品歩止り (%)	薪材歩合 (%)	鋸屑歩合 (%)	摘要
総合計	3919.1	2848.1	642.6	428.2	72.7	16.4	10.9	小数以下2位
平均	39.2	28.5	6.4	4.3				四捨五入1位止

第 2 表 B.W.G. 24 3 分板径級別歩止り比較表

末口径級別 (寸)	供試本数 (本)	素材総重量 (kg)	製品総重量 (kg)	薪材重量 (kg)	鋸屑重量 (kg)	製品歩止り (%)	薪材歩合 (%)	鋸屑歩合 (%)	摘 要
4.0	1	22.5	14.4	5.9	2.2	64.0	26.2	9.8	長さ 6.6 尺 巾 寸 1.2 3.0 } 1,2等 3.5 4.0 寸上 1等
4.5	6	133.3	91.0	28.3	14.0	68.3	21.2	10.5	
5.0	23	560.5	395.3	102.6	62.6	70.5	18.3	11.2	
5.5	17	489.8	341.5	93.0	55.3	69.7	18.9	11.2	
6.0	14	485.2	345.4	82.3	57.5	71.2	17.0	11.9	
6.5	9	392.9	286.3	62.6	43.0	72.9	15.9	10.9	
7.0	6	267.8	194.6	43.8	29.4	72.7	16.4	11.0	
7.5	6	315.3	239.4	44.5	31.4	75.9	14.1	10.0	
8.0	9	533.8	408.0	67.4	58.4	76.4	12.6	10.9	
8.5	2	140.9	107.6	18.9	14.4	76.4	13.4	10.2	
9.0	4	310.5	223.1	55.9	31.5	71.9	18.0	10.1	
9.5	1	74.5	56.1	11.2	7.2	75.3	15.0	9.7	
10.0	2	192.9	145.4	26.2	21.3	75.4	13.6	11.0	
計	100	3919.9	2848.1	642.6	428.2	72.7	16.4	10.9	



右されることが少なく10%前後を多少上下している。
この実験結果は B. W. G 23 (第 1 報) に比して製品歩止りが悪く、薪材歩合が多くなり鋸屑歩合が少なくなっている。恐らく丸太の条件に支配されたものである

と思われるので、末口径最小値及最大値に対して元口径最小値及び最大値の関係を比較検討し 2 次の機会に発表したい。

皆様の御批判と御指導を御願ひする。